

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月21日（土） 午後3時から4時40分まで
場 所	油縄子小学校 多目的室
出席人数	(1) 市 民 12人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計18人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(質問) (中小路学区)</p> <p>アンケートの回収率が70.7%とあるが、あたかも市の人口の70%が答えているように書かれているが、いかがなものか。</p> <p>全体のロードマップが見えない。10年間の子どもの推計がないのに先のことを考えられない。</p> <p>基本方針では何を決めるのか。適正配置というが、統合なのか、小中一貫なのか。日立市の方針となっているが、日立市の基準は文科省と同じではないか。日立市のもので検討されているのか。</p> <p>「2学級、3学級」というが、1学級を否定するのか。1学級でもいいところはある。検討しないまま、「2学級、3学級」というのは、いかがなものか。山側の学校では、2学級などあり得ない。</p> <p>(事務局)</p> <p>18万人の人口のうちの7,000人だろうという御意見だが、一般的なアンケートのサンプル数としては十分だと考えている。しかし、アンケートだけでは不十分と考えているので、地域懇談会において御意見を伺っていると御理解いただきたい。</p> <p>具体的な計画期間については、来年度検討していきたい。学校別の児童生徒数の推計もバックデータとしては持っている。検討委員会に置いて適切な時期に提示していく。10年間程度先を見越した計画を考えている。</p> <p>文科省の基準は、参考として載せているが、いろいろな立場の方が参加している検討委員会の場で検討されたものであると御理解いただきたい。</p> <p>(意見・質問) (中小路学区)</p> <p>人口は減る一方だ。来年度計画を作る予定なら、ある程度の考えがあるのではないか。中小路小は廃校になると思うが、いつ頃か。学校間で差がある。やるなら早い方がよい。中小路小は、設備も校舎も古いしエアコンもない。そのような学校に（他の学校を）統合するのか。廃校になると分かる学校に設備投資はしないだろう。</p> <p>5、6年生になって転校はかわいそうだ。在校生は、そのまま卒業できるか。廃校になると分かったら、はじめから統合先の学校に入学することはできるのか。</p>

(事務局)

基本的にはゼロベースでの検討である。そのために御意見を伺っている。

仮に統廃合ということになっても、計画ができて、翌年すぐ廃校となるようなタイムスケジュールにはならない。日立市は学区制を敷いている。統合されることが決まっているから、統合先の学校に指定校変更を認めるかどうかは決めていない。

(意見) (油縄子学区)

目安が3年なのか5年なのか、見通しを立ててあげないと、小さい子どもの保護者は心配だろう。ある程度の期間を示すべきではないか。

10年後の油縄子学区の人数を示してもらえれば分かりやすい。

(事務局)

今回は、現状を説明する資料をお示ししている。このような現状なので検討をして行くという説明をさせていただいている。学区ごとの推計などをお示しして説明するのは来年度と考えている。現時点で、「5年後に始めます」とか「10年後に半分にします」というようなことは(検討していないので)お話しできない。

(意見) (油縄子学区)

0～6歳の人数は分かるだろう。それを示してくれた方が考えやすい。

意見を聞くだけで、何年後かも答えられないのでは、我々も意見を言えない。懇談会をやっても意味がない。

(事務局)

来年度は「いつまでに、どこを、どうしたい」という案を作って、お示ししたいと考えている。

(質問) (中小路学区)

素案を最終的に決定するのは誰か。教育委員会か、市議会か。

(意見) (中小路学区)

保護者の危機感がないのではないかと。誰も来ていない。このような状態で「意見を聞いています」と言われてもいかななものか。5年後には廃校になると分かったら、その地域には人が住まなくなる。誰も住みたくない。

(事務局)

基本方針の決定は、検討委員会からの提言を受け、教育委員会が案を作る。学校の設置者は市であるため、仮に統廃合ということになれば、学校設置条例の変更になるので、提案は市が行い、議会の承認が必要になる。

(意見) (油縄子学区)

1学級のメリットは、とてもある。

いじめがなかった。先生方の力添えが大きかったと思うが、安心して通わせることができた。

コミュニケーション力でも問題はない。多賀中に進学しても、困ったことはなかった。

学力も、少人数の方が確かな学力がついた。

スポーツ面でも、人数が少ないと選手に選ばれ、自信になる。複数学級になると、そのような訳にはいかなくなると思う。小学校は少人数で良か

ったと思う。学力でも、遅れてしまう子が出るのではないか。

ただし、先生方は大変だろうと思いながら見ていた。行事の時などは大きな学校のマンパワーが羨ましかった。

(事務局)

少人数教育の良さは十分承知している。アンケートでも同様の御意見をいただいている。

(質問) (中小路学区)

パブリックコメントで反対が多ければ、廃校しないのか。

(事務局)

統廃合が前提ではないが、大多数が反対だということであれば無理にはできないと考えている。学校を残す、残さないという議論もあろうが、子どもの環境を整えることが目的であることを理解していただきたい。

(質問) (油縄子学区)

適正な児童数とはどのくらいの人数なのか。25校ある中で、理想的な学校はあるのか。

(事務局)

あえて数字を出すなら、1つの学年ごとに小学2年生までは36人以上、小学3年生以上は41人以上いれればと考えている。具体的には、資料2の6ページを御覧いただきたい。

(質問) (中小路学区)

現在通っている子どもが、その学校を卒業できるかどうかを、なぜ、教えてくれないのか。来年の計画策定なら、もう決めているのではないか。

(事務局)

決めていないので、お答えはできない。

(質問) (中小路学区)

他市町村の事例で、計画が決まってから実際の統合までの期間が分かるのではないか。目安になる。

(事務局)

準備期間、校舎の整備などに時間がかかる。スタートしてから3～5年くらいが目安になる。統合後の学校の形によっても変わってくる。

(質問) (中小路学区)

5年後くらいに入学する人、これから産む世代の意見を吸い上げる必要があるのではないか。

(事務局)

不安を解消するためにも、できるだけ広く、早くアナウンスしたいと思っているが、不確かな情報は出たくない。検討され、市の考えとしてオーソライズされたものについて情報提供して行く。

(意見) (中小路学区)

学区が見直されると、コミュニティとの関係が変わってしまう。なくなってしまうのではないか。

(事務局)

コミュニティがなくなるとは考えていない。学校の統合がコミュニティの統合とは考えていない。地域によって、やり方はいろいろあるだろうと思う。

(教育部長)

学校をいじるということは、多方面に影響が出て、簡単にはいかない。

1学級がいいか、2学級がいいかは、検討委員会でも議論されているが、結論までは導けない。どちらにも良いところがある。

子どもが通える距離を超えて統合することは難しい。どうすればよいかを考えていかなければならない。

すでに噂が独り歩きしているようだが、計画ができたからといって、すぐにどうにかなる訳ではない。地域の反対が強ければ、無理強いはできない。他市町村の例では、計画の策定から実際に再編されるまでに6～7年かかっている。

(意見) (油縄子学区)

平成31年3月の計画には、具体的な数字が出てくるのか。

(事務局)

平成30年度に策定する基本計画の中では、「どこの学校をいつまでにどうしたい」を提示したいと考えている。

(意見) (油縄子学区)

市民活動課と話し合っ取り組んでほしい。平成31年3月に、市民活動課からも同じような形が出てくるようにしてほしい。

(教育部長)

学区の形がある程度見えてこないで、市民活動課との話も進まない。具体的な形が見えてきてから詰めていこうと話しているところ。

(意見) (中小路学区)

文部科学省では、通学距離の基準を、小学校4km、中学校6kmとしている。

(事務局)

文部科学省の手引きでは、通学時間も示されていて、バスなどを使ってもおおむね1時間以内となっている。

(意見) (中小路学区)

適正配置とは関係ないが、要望したい。

ランドセルがもらえるのはありがたいが、サイズが小さい。荷物が多く入りきらない。見直してもいいのではないか。

(教育長)

どのようなランドセルがいいか。

(意見) (中小路学区)

自分で買いたい。自由に選べればよい。

(意見) (油縄子学区)

皆が同じなのは、良かった。迷わずに済んだ。しかし、荷物は重いと思

う。

子どもの時は、体を鍛える時期。堂平団地の子どもたちが、通学路に使っていた道路で事件があり、成沢小に行くことになった。40～50分かかるが、元気に通っている。手を出し過ぎるのも考えものだ。歩いた方がよい。陸上記録会でも、成沢小の子たちは足腰がしっかりしている。自分たちの頃は、路線バスで幼稚園に通っていた。居眠りなどをしていると、運転手が声をかけてくれた。手を出し過ぎると子どもの生きる力がなくなってしまう。とはいえ、今と昔では事情が違うことも多い。よく考えていかなければならない。

(事務局)

参考までに、日立市のランドセルの重さは、約500g。贈呈の発端は、入学祝と親御さんの負担軽減と聞いている。一長一短あると思う。

(意見) (油縄子学区)

宿題が多い。適正配置を進めていくと、これまでよりも通学時間がかかるようになる。学力が落ちない程度に宿題を減らしてほしい。

ドリルにもとても時間がかかっている。宿題に時間がかかると、友達と遊ぶ時間も無くなる。短時間で効果が上がる宿題の出し方を考えてほしい。

(教育長)

いろいろな御意見を伺えて有意義だった。はっきり答えられないこともあり、皆さんはスッキリしないかもしれないが、御意見、御不安を承っておく。

以上